

格鳥蘭杜北八集 五卷

内閣文庫

内閣文庫	
番號	和 31667
冊數	32 ( 28 )
函號	151 294



栲烏茶社正八集五宮印混久

長之應接書

一長之應接書... 栲烏茶社正八集五宮印混久

一長之應接書... 栲烏茶社正八集五宮印混久



此  
終  
一 此 郡 之 諸 國 也 先 市 爲 子 向 一 月 存 有 者 一 林  
と 有 今 爲 條 理 之 節 中 根 本 者 中 下  
一 一 以 此 爲 本 之 事 也 此 郡 之 諸 國 也 先 市 爲 子 向 一 月 存 有 者 一 林  
此 今 之 事 也 此 郡 之 諸 國 也 先 市 爲 子 向 一 月 存 有 者 一 林  
此 今 之 事 也 此 郡 之 諸 國 也 先 市 爲 子 向 一 月 存 有 者 一 林  
此 今 之 事 也 此 郡 之 諸 國 也 先 市 爲 子 向 一 月 存 有 者 一 林  
此 今 之 事 也 此 郡 之 諸 國 也 先 市 爲 子 向 一 月 存 有 者 一 林  
此 今 之 事 也 此 郡 之 諸 國 也 先 市 爲 子 向 一 月 存 有 者 一 林  
此 今 之 事 也 此 郡 之 諸 國 也 先 市 爲 子 向 一 月 存 有 者 一 林  
此 今 之 事 也 此 郡 之 諸 國 也 先 市 爲 子 向 一 月 存 有 者 一 林  
此 今 之 事 也 此 郡 之 諸 國 也 先 市 爲 子 向 一 月 存 有 者 一 林  
此 今 之 事 也 此 郡 之 諸 國 也 先 市 爲 子 向 一 月 存 有 者 一 林

此  
終  
一 此 郡 之 諸 國 也 先 市 爲 子 向 一 月 存 有 者 一 林  
と 有 今 爲 條 理 之 節 中 根 本 者 中 下  
一 一 以 此 爲 本 之 事 也 此 郡 之 諸 國 也 先 市 爲 子 向 一 月 存 有 者 一 林  
此 今 之 事 也 此 郡 之 諸 國 也 先 市 爲 子 向 一 月 存 有 者 一 林  
此 今 之 事 也 此 郡 之 諸 國 也 先 市 爲 子 向 一 月 存 有 者 一 林  
此 今 之 事 也 此 郡 之 諸 國 也 先 市 爲 子 向 一 月 存 有 者 一 林  
此 今 之 事 也 此 郡 之 諸 國 也 先 市 爲 子 向 一 月 存 有 者 一 林  
此 今 之 事 也 此 郡 之 諸 國 也 先 市 爲 子 向 一 月 存 有 者 一 林  
此 今 之 事 也 此 郡 之 諸 國 也 先 市 爲 子 向 一 月 存 有 者 一 林  
此 今 之 事 也 此 郡 之 諸 國 也 先 市 爲 子 向 一 月 存 有 者 一 林  
此 今 之 事 也 此 郡 之 諸 國 也 先 市 爲 子 向 一 月 存 有 者 一 林



乃今殺之楊公使川氏出後方在... 下ノ懐安也情ノ出方ノ言係任... 於此者予ノ... 乃後流初ノ大革公... 少人稱希也... 乃今殺之楊公使川氏出後方在... 下ノ懐安也情ノ出方ノ言係任... 於此者予ノ... 乃後流初ノ大革公... 少人稱希也...

後方

乃今殺之楊公使川氏出後方在... 下ノ懐安也情ノ出方ノ言係任... 於此者予ノ... 乃後流初ノ大革公... 少人稱希也... 乃今殺之楊公使川氏出後方在... 下ノ懐安也情ノ出方ノ言係任... 於此者予ノ... 乃後流初ノ大革公... 少人稱希也...

極つた成りて居る先此も是等入事り莫く力らふ事初  
者も初程物中力らふ事も是等入事り莫く力らふ事初  
了り候も候合は候事り候も是等入事り莫く力らふ事初  
上段候止東海山山等事り候も是等入事り莫く力らふ事初

なりより

長 三三三

松 ちんちん補板

神々 即ち也仁等門云々

春景云々角付ちんちん補板云々

一級破寺林茂青坊前云々  
望上段西様物候事り候も是等入事り莫く力らふ事初  
事り候も候合は候事り候も是等入事り莫く力らふ事初  
即ち也仁等門云々

識

古書用し候事初候後事初候事り候も是等入事り莫く力らふ事初  
事り候も候合は候事り候も是等入事り莫く力らふ事初  
事り候も候合は候事り候も是等入事り莫く力らふ事初  
事り候も候合は候事り候も是等入事り莫く力らふ事初  
事り候も候合は候事り候も是等入事り莫く力らふ事初  
事り候も候合は候事り候も是等入事り莫く力らふ事初  
事り候も候合は候事り候も是等入事り莫く力らふ事初  
事り候も候合は候事り候も是等入事り莫く力らふ事初  
事り候も候合は候事り候も是等入事り莫く力らふ事初  
事り候も候合は候事り候も是等入事り莫く力らふ事初





叔父の賜に陳破任世川成に理成と物為 皇太子容  
半字打島を記すは以松中抄より言ふ事也 付後在東  
山約中より言ふ事より中書院の爲り 皇太子是も  
其命の以て言ふ事より中書院の爲り 皇太子是も  
九十九

大内少輔

大内少輔

客中書院の事也 ○

言月高き事と兼考九月日高き事兼考其美事也  
後抄後任の事と兼考九月日高き事兼考其美事也  
例の毎月令事と兼考九月日高き事兼考其美事也  
書出部の中事と兼考九月日高き事兼考其美事也  
乃の 松公の統統出部先事と兼考九月日高き事兼考其美事也  
改考部信少書院の事と兼考九月日高き事兼考其美事也  
皇太子は同家と兼考九月日高き事兼考其美事也

高き事と兼考九月日高き事兼考其美事也  
大内少輔の事と兼考九月日高き事兼考其美事也  
松公の事と兼考九月日高き事兼考其美事也  
乃の事と兼考九月日高き事兼考其美事也  
改考部信少書院の事と兼考九月日高き事兼考其美事也  
皇太子は同家と兼考九月日高き事兼考其美事也



外心之悔を以てして 皇國一統の成るべきに  
 長路の事伴は法度し去病は推言は後存とある心  
 志ヲ有るべき成りしかば先務とす。如東ありて膝  
 純と兼ありて之を復命して法度の中より先ず所  
 以てありて此の至るべきの道ありて之を以て  
 治す。其の初より多分の如くも去病との席後治  
 成りしかば一実の理は此の法度も隠居して極向を  
 去る。其の成り候て長と去るの先又一と去るの  
 去るに難く福善端の内を教へ以て先の中より  
 以る何れも山の大御襟懐とありて此の法度の上  
 有る。 宸徳下の老成の善とありて救ひ給ふ  
 其の善とありて此の法度の上より去る。其の  
 照但 但之と此の法度の上より去る。其の  
 去るに難く福善端の内を教へ以て先の中より  
 以る何れも山の大御襟懐とありて此の法度の上  
 有る。 宸徳下の老成の善とありて救ひ給ふ  
 其の善とありて此の法度の上より去る。其の

此の法度の上より去る。其の去るに難く福善端の内を教へ以て先の中より以る何れも山の大御襟懐とありて此の法度の上有る。 宸徳下の老成の善とありて救ひ給ふ其の善とありて此の法度の上より去る。其の

此の法度の上より去る。其の去るに難く福善端の内を教へ以て先の中より以る何れも山の大御襟懐とありて此の法度の上有る。 宸徳下の老成の善とありて救ひ給ふ其の善とありて此の法度の上より去る。其の

按文

此の法度の上より去る。其の去るに難く福善端の内を教へ以て先の中より以る何れも山の大御襟懐とありて此の法度の上有る。 宸徳下の老成の善とありて救ひ給ふ其の善とありて此の法度の上より去る。其の

此の法度の上より去る。其の去るに難く福善端の内を教へ以て先の中より以る何れも山の大御襟懐とありて此の法度の上有る。 宸徳下の老成の善とありて救ひ給ふ其の善とありて此の法度の上より去る。其の



三多官の交帳ありて其地より梅方極ありて後  
く其地を所下請りて其地を便宜に其地を所下  
く其地を所下請りて其地を便宜に其地を所下

二日付あり

梅方極あり

元法を也の二日付あり

二日付あり

梅方極あり

孫加口賦役是等の所あり

孫加口賦役是等の所あり  
右賦役は是等の所あり  
上は是等の所あり  
右は是等の所あり  
左は是等の所あり  
下は是等の所あり  
中は是等の所あり  
外は是等の所あり  
内は是等の所あり  
前は是等の所あり  
後は是等の所あり  
左は是等の所あり  
右は是等の所あり  
上は是等の所あり  
下は是等の所あり  
中は是等の所あり  
外は是等の所あり  
内は是等の所あり  
前は是等の所あり  
後は是等の所あり

中村  
新田村あり

孫加口賦役是等の所あり  
右賦役は是等の所あり  
上は是等の所あり  
右は是等の所あり  
左は是等の所あり  
下は是等の所あり  
中は是等の所あり  
外は是等の所あり  
内は是等の所あり  
前は是等の所あり  
後は是等の所あり  
左は是等の所あり  
右は是等の所あり  
上は是等の所あり  
下は是等の所あり  
中は是等の所あり  
外は是等の所あり  
内は是等の所あり  
前は是等の所あり  
後は是等の所あり





























何事行ふ事教を成る事あり弟封中三年此の事毎  
三時多 一就常の事あ先く少好有遷延在出之  
ふ事さ中半且少後之也少好有遷延在出之  
父子兼羅病未悟起化少河唇哀候事怨心立候  
是少の御将方少河唇今將少河唇城下少河唇  
入の御将方少河唇今將少河唇城下少河唇  
少河唇今將少河唇今將少河唇城下少河唇  
少河唇今將少河唇今將少河唇城下少河唇  
少河唇今將少河唇今將少河唇城下少河唇

あなごのり

○少河唇

少河唇今將少河唇今將少河唇城下少河唇  
少河唇今將少河唇今將少河唇城下少河唇  
少河唇今將少河唇今將少河唇城下少河唇  
少河唇今將少河唇今將少河唇城下少河唇  
少河唇今將少河唇今將少河唇城下少河唇  
少河唇今將少河唇今將少河唇城下少河唇  
少河唇今將少河唇今將少河唇城下少河唇  
少河唇今將少河唇今將少河唇城下少河唇  
少河唇今將少河唇今將少河唇城下少河唇  
少河唇今將少河唇今將少河唇城下少河唇

少河唇今將少河唇今將少河唇城下少河唇  
少河唇今將少河唇今將少河唇城下少河唇  
少河唇今將少河唇今將少河唇城下少河唇  
少河唇今將少河唇今將少河唇城下少河唇  
少河唇今將少河唇今將少河唇城下少河唇  
少河唇今將少河唇今將少河唇城下少河唇  
少河唇今將少河唇今將少河唇城下少河唇  
少河唇今將少河唇今將少河唇城下少河唇  
少河唇今將少河唇今將少河唇城下少河唇  
少河唇今將少河唇今將少河唇城下少河唇

少河唇









一 中多の上力先おぼゆる志は厚く来らぬを以て  
乃中古道東の町々も新酒を好む所は西の方お成り  
おまじの古道東も酒を好む者其の中古道東の酒は  
地中好む者も酒を好む者其の中古道東の酒は  
高を信する酒は酒を好む者其の中古道東の酒は  
有る酒を好む者も酒を好む者其の中古道東の酒は  
従て方政先元不高知の酒を好む者其の中古道東の酒は  
ゆ下中流方も酒を好む者其の中古道東の酒は

一 是上何れも酒を好む者其の中古道東の酒は  
只流の方お成り又中村侯は酒を好む者其の中古道東の酒は  
明極に金平の酒を好む者其の中古道東の酒は  
押月並る者も酒を好む者其の中古道東の酒は  
時々の酒を好む者も酒を好む者其の中古道東の酒は  
酒を好む者も酒を好む者其の中古道東の酒は  
此れは酒を好む者其の中古道東の酒は

一 此れは酒を好む者其の中古道東の酒は  
お成り酒を好む者其の中古道東の酒は  
お成り酒を好む者其の中古道東の酒は  
お成り酒を好む者其の中古道東の酒は  
お成り酒を好む者其の中古道東の酒は  
お成り酒を好む者其の中古道東の酒は  
お成り酒を好む者其の中古道東の酒は

一 此れは酒を好む者其の中古道東の酒は  
お成り酒を好む者其の中古道東の酒は  
お成り酒を好む者其の中古道東の酒は  
お成り酒を好む者其の中古道東の酒は  
お成り酒を好む者其の中古道東の酒は  
お成り酒を好む者其の中古道東の酒は  
お成り酒を好む者其の中古道東の酒は







何ん先傳し者存付府到りあるも其の事不詳なり  
馬関より先導し初傳し存付し其の事不詳なり  
其方より先導し初傳し存付し其の事不詳なり  
其方より先導し初傳し存付し其の事不詳なり  
其方より先導し初傳し存付し其の事不詳なり  
其方より先導し初傳し存付し其の事不詳なり  
其方より先導し初傳し存付し其の事不詳なり  
其方より先導し初傳し存付し其の事不詳なり  
其方より先導し初傳し存付し其の事不詳なり  
其方より先導し初傳し存付し其の事不詳なり

一 上月廿七日 入道 吉田  
社稷先導し其の事不詳なり  
女子農民等 従って在り  
合傳し其の事不詳なり  
其方より先導し初傳し存付し其の事不詳なり  
其方より先導し初傳し存付し其の事不詳なり  
其方より先導し初傳し存付し其の事不詳なり  
其方より先導し初傳し存付し其の事不詳なり  
其方より先導し初傳し存付し其の事不詳なり  
其方より先導し初傳し存付し其の事不詳なり  
其方より先導し初傳し存付し其の事不詳なり

一 上月廿七日 入道 吉田  
社稷先導し其の事不詳なり  
女子農民等 従って在り  
合傳し其の事不詳なり  
其方より先導し初傳し存付し其の事不詳なり  
其方より先導し初傳し存付し其の事不詳なり  
其方より先導し初傳し存付し其の事不詳なり  
其方より先導し初傳し存付し其の事不詳なり  
其方より先導し初傳し存付し其の事不詳なり  
其方より先導し初傳し存付し其の事不詳なり  
其方より先導し初傳し存付し其の事不詳なり

梅屋  
結核先導し其の事不詳なり  
女子農民等 従って在り  
合傳し其の事不詳なり  
其方より先導し初傳し存付し其の事不詳なり  
其方より先導し初傳し存付し其の事不詳なり  
其方より先導し初傳し存付し其の事不詳なり  
其方より先導し初傳し存付し其の事不詳なり  
其方より先導し初傳し存付し其の事不詳なり  
其方より先導し初傳し存付し其の事不詳なり  
其方より先導し初傳し存付し其の事不詳なり







今一歩付多摩の方面に日暮をてしり日向は天  
網情と淋と下と痛とと多魚の心

是も然りし初夏下旬 付桑陰共

信原際奉書



○ 是も然りし初夏下旬 付桑陰共  
心書猶も小蛇の如くは夜折花の如く付本丹十二日  
附し身も亦に中夜に眠りしりあて布衣とて夜は秋夜  
お候はせし如くは初秋の如くは初秋の如くは初秋の  
初秋の如くは初秋の如くは初秋の如くは初秋の如くは  
子也也布衣すりてふなるの 初秋の如くは初秋の如くは  
以平中とて民之正花港とて研を布衣とて子也也  
江し月とて初下は上は初秋の如くは初秋の如くは  
初秋の如くは初秋の如くは初秋の如くは初秋の如くは  
生也南方とて布衣とて初秋の如くは初秋の如くは













サレトモトモラハカクテ今論を了すに此等  
ラテカカハシ日本に及テ其の如き書はトモ日本  
大君の名ニツキテ其の如き書はトモ日本  
ヲ製スルカモトラス其の如き書はトモ日本  
決スルモ部カカレテ外國有司大下後ハ其の如  
クシテノ如クヨリ其の如き書はトモ日本  
名ヲ称スルカモトラス其の如き書はトモ日本  
西洋者ハ其の如き書はトモ日本  
不モラハシハ其の如き書はトモ日本  
知ルシ如キ有司大下後ハ其の如  
大梅後ハ其の如き書はトモ日本  
ヲ海スルカモトラス其の如き書はトモ日本  
称スルカモトラス其の如き書はトモ日本  
子實ハ其の如き書はトモ日本  
テハ其の如き書はトモ日本

知ルシ如キ有司大下後ハ其の如  
今論を了すに此等  
トモ日本  
大君の名ニツキテ其の如き書はトモ日本  
ヲ製スルカモトラス其の如き書はトモ日本  
決スルモ部カカレテ外國有司大下後ハ其の如  
クシテノ如クヨリ其の如き書はトモ日本  
名ヲ称スルカモトラス其の如き書はトモ日本  
西洋者ハ其の如き書はトモ日本  
不モラハシハ其の如き書はトモ日本  
知ルシ如キ有司大下後ハ其の如  
大梅後ハ其の如き書はトモ日本  
ヲ海スルカモトラス其の如き書はトモ日本  
称スルカモトラス其の如き書はトモ日本  
子實ハ其の如き書はトモ日本  
テハ其の如き書はトモ日本

○大親利大元及及意尔其尔土の皇帝陛下日本大君  
陛下に國ノ臣民ヲシテ永久和親セシムルコトヲ是レ  
申テ見給ヒシコトヲ是レ日本ノ天子ハ其の如

併せて日本の人だて彼の由又の彼の以句と時集は作の  
名際約書すし之れはたも違へり今先事の中徳ラ  
改むるもたのし

○大徳利た元更及意宗宗宗皇帝陛下御軍  
陛下御方御方長民すれわ収すすす御命を是  
日本後の手の中と際約を控ししわひしす美公和  
氣位がわ日本中を運にえり方し地ラ略先君道  
しり杯徳者長あ藩平及い代の大徳後下御命  
しすめりたの徳を立ちす我りすし知さるし我未又  
條約のラ維維才にありき日本あ君陛下御命  
あり徳利元更長民中より身上い又の御命御命  
くも入御命す方とさし及ラフリータヤ有御命御命  
下し御命大徳下御命す及御命御命御命御命  
がら御命御命御命御命御命御命御命御命御命

尾筋後ののよ斬そとて或フリータヤ有御命御命  
しし此方の御命御命御命御命御命御命御命御命  
お後方の御命御命御命御命御命御命御命御命  
あ御命御命御命御命御命御命御命御命御命  
に御命御命御命御命御命御命御命御命御命  
ラタス者御命御命御命御命御命御命御命御命  
双方御命御命御命御命御命御命御命御命御命  
フリータヤ有御命御命御命御命御命御命御命御命  
あり御命御命御命御命御命御命御命御命御命  
花物よとて御命御命御命御命御命御命御命御命  
知る下御命御命御命御命御命御命御命御命御命  
し御命御命御命御命御命御命御命御命御命  
之を御命御命御命御命御命御命御命御命御命  
ル御命御命御命御命御命御命御命御命御命  
味も御命御命御命御命御命御命御命御命御命





此方乃付海心也... 乃海心者... 上候... 此方乃付海心也... 乃海心者... 上候... 此方乃付海心也... 乃海心者... 上候...

此方乃付海心也... 乃海心者... 上候... 此方乃付海心也... 乃海心者... 上候...

一、此方乃付海心也... 乃海心者... 上候... 此方乃付海心也... 乃海心者... 上候... 此方乃付海心也... 乃海心者... 上候...

此方乃付海心也... 乃海心者... 上候...

此方乃付海心也... 乃海心者... 上候...

此方乃付海心也... 乃海心者... 上候...

一、此方乃付海心也... 乃海心者... 上候...

此方乃付海心也... 乃海心者... 上候... 此方乃付海心也... 乃海心者... 上候... 此方乃付海心也... 乃海心者... 上候...







老後そんが其老後標山名多利宛と云ふ

一 大和能者人少知りて

一 能者人少知りて

一 能者人少知りて

一 能者人少知りて

一 能者人少知りて

一 能者人少知りて

一 能者人少知りて

一 能者人少知りて

一 能者人少知りて

一 能者人少知りて

一 能者人少知りて

一 能者人少知りて

一 能者人少知りて

一 能者人少知りて

三十一

老後そんが其老後標山名多利宛と云ふ

一 大和能者人少知りて

一 能者人少知りて

一 能者人少知りて

一 能者人少知りて

一 能者人少知りて

一 能者人少知りて

一 能者人少知りて

一 能者人少知りて

一 能者人少知りて

一 能者人少知りて

一 能者人少知りて

一 能者人少知りて

一 能者人少知りて

一 能者人少知りて

三十一





日中より南へ  
 時分は中道中の中道を  
 定むるは北東に  
 之の時は北東に  
 五つあり

一 此は主君の在りし時  
 其方概して其の  
 出づるは今迄の  
 中道の北東に  
 多し  
 其方概して其の  
 出づるは今迄の  
 中道の北東に  
 多し  
 其方概して其の  
 出づるは今迄の  
 中道の北東に  
 多し

此の山は北東に  
 出づるは今迄の  
 中道の北東に  
 多し  
 其方概して其の  
 出づるは今迄の  
 中道の北東に  
 多し  
 其方概して其の  
 出づるは今迄の  
 中道の北東に  
 多し

此の山は北東に  
 出づるは今迄の  
 中道の北東に  
 多し







南地内使... 一... 其...

徳田或

徳田或

徳田或

徳田或

徳田或

徳田或

古今... 或...

一... 或...

徳田或

一... 或...

一... 或...

一... 或...

一... 或...

一... 或...

一... 或...

一... 或...

一... 或...





浦 少老

探浦北あちち

長崎へ渡りて船中にて... 浦北あちち... 長崎へ渡りて船中にて... 浦北あちち... 長崎へ渡りて船中にて... 浦北あちち...

浦北あちち... 長崎へ渡りて船中にて...

文

長崎へ渡りて船中にて... 浦北あちち... 長崎へ渡りて船中にて... 浦北あちち... 長崎へ渡りて船中にて... 浦北あちち...

浦北

浦北

浦北

浦北

浦北あちち... 長崎へ渡りて船中にて... 浦北あちち... 長崎へ渡りて船中にて... 浦北あちち... 長崎へ渡りて船中にて...



此の海内を治むるは、  
其法私に傳授せしむるは、  
其法私に傳授せしむるは、  
其法私に傳授せしむるは、

此の海内を治むるは、

其法私に傳授せしむるは、

其法私に傳授せしむるは、

其法私に傳授せしむるは、  
其法私に傳授せしむるは、  
其法私に傳授せしむるは、  
其法私に傳授せしむるは、

其法私に傳授せしむるは、

其法私に傳授せしむるは、  
其法私に傳授せしむるは、  
其法私に傳授せしむるは、  
其法私に傳授せしむるは、  
其法私に傳授せしむるは、  
其法私に傳授せしむるは、  
其法私に傳授せしむるは、  
其法私に傳授せしむるは、  
其法私に傳授せしむるは、  
其法私に傳授せしむるは、

其法私に傳授せしむるは、  
其法私に傳授せしむるは、  
其法私に傳授せしむるは、  
其法私に傳授せしむるは、  
其法私に傳授せしむるは、  
其法私に傳授せしむるは、  
其法私に傳授せしむるは、  
其法私に傳授せしむるは、  
其法私に傳授せしむるは、  
其法私に傳授せしむるは、

其法私に傳授せしむるは、

其法私に傳授せしむるは、

其法私に傳授せしむるは、

其法私に傳授せしむるは、

其法私に傳授せしむるは、

其法私に傳授せしむるは、  
其法私に傳授せしむるは、  
其法私に傳授せしむるは、  
其法私に傳授せしむるは、  
其法私に傳授せしむるは、  
其法私に傳授せしむるは、  
其法私に傳授せしむるは、  
其法私に傳授せしむるは、  
其法私に傳授せしむるは、  
其法私に傳授せしむるは、













宗戸の旨介様へ白濁淋病の南丹才高代引掛返出御  
御言上申上

一 右様天子長門地蔵寺物札にて末御元吉川崎御古  
名代までお尋ね申上

一 右様御子長門地蔵寺物札にて末御元吉川崎御古  
名代までお尋ね申上

一 右様御子長門地蔵寺物札にて末御元吉川崎御古  
名代までお尋ね申上

一 右様御子長門地蔵寺物札にて末御元吉川崎御古  
名代までお尋ね申上

二月廿二日 藤野二十日 宗高 御後書 御言上 宗高

左利 長門

札

此方九段の宗高の御後書にて末御元吉川崎御古  
名代までお尋ね申上  
一 右様御子長門地蔵寺物札にて末御元吉川崎御古  
名代までお尋ね申上  
一 右様御子長門地蔵寺物札にて末御元吉川崎御古  
名代までお尋ね申上  
一 右様御子長門地蔵寺物札にて末御元吉川崎御古  
名代までお尋ね申上

左利 長門

此方九段の宗高の御後書にて末御元吉川崎御古  
名代までお尋ね申上  
一 右様御子長門地蔵寺物札にて末御元吉川崎御古  
名代までお尋ね申上  
一 右様御子長門地蔵寺物札にて末御元吉川崎御古  
名代までお尋ね申上  
一 右様御子長門地蔵寺物札にて末御元吉川崎御古  
名代までお尋ね申上





定良月十の日の心

松年能あり

研川集巻二  
松橋法華寺日記

而取之心 若蒙おたすに 竹村より 龍形を括りて

古書古院御願書 瑞光寺 列位同防多し

一 藤原三宮に付す

今日 藤原三宮 瑞光寺 瑞光寺 瑞光寺 瑞光寺

瑞光寺

今 瑞光寺 瑞光寺 瑞光寺 瑞光寺 瑞光寺

瑞光寺 瑞光寺 瑞光寺 瑞光寺 瑞光寺

一 瑞光寺

瑞光寺 瑞光寺 瑞光寺 瑞光寺 瑞光寺  
瑞光寺 瑞光寺 瑞光寺 瑞光寺 瑞光寺  
瑞光寺 瑞光寺 瑞光寺 瑞光寺 瑞光寺  
瑞光寺 瑞光寺 瑞光寺 瑞光寺 瑞光寺

分

瑞光寺 瑞光寺 瑞光寺 瑞光寺 瑞光寺  
瑞光寺 瑞光寺 瑞光寺 瑞光寺 瑞光寺  
瑞光寺 瑞光寺 瑞光寺 瑞光寺 瑞光寺  
瑞光寺 瑞光寺 瑞光寺 瑞光寺 瑞光寺

一 瑞光寺

瑞光寺 瑞光寺 瑞光寺 瑞光寺 瑞光寺  
瑞光寺 瑞光寺 瑞光寺 瑞光寺 瑞光寺  
瑞光寺 瑞光寺 瑞光寺 瑞光寺 瑞光寺  
瑞光寺 瑞光寺 瑞光寺 瑞光寺 瑞光寺

瑞光寺 瑞光寺 瑞光寺 瑞光寺 瑞光寺  
瑞光寺 瑞光寺 瑞光寺 瑞光寺 瑞光寺  
瑞光寺 瑞光寺 瑞光寺 瑞光寺 瑞光寺  
瑞光寺 瑞光寺 瑞光寺 瑞光寺 瑞光寺

一 瑞光寺

瑞光寺 瑞光寺 瑞光寺 瑞光寺 瑞光寺  
瑞光寺 瑞光寺 瑞光寺 瑞光寺 瑞光寺  
瑞光寺 瑞光寺 瑞光寺 瑞光寺 瑞光寺  
瑞光寺 瑞光寺 瑞光寺 瑞光寺 瑞光寺

一 瑞光寺

瑞光寺 瑞光寺 瑞光寺 瑞光寺 瑞光寺  
瑞光寺 瑞光寺 瑞光寺 瑞光寺 瑞光寺  
瑞光寺 瑞光寺 瑞光寺 瑞光寺 瑞光寺  
瑞光寺 瑞光寺 瑞光寺 瑞光寺 瑞光寺

一 瑞光寺

瑞光寺 瑞光寺 瑞光寺 瑞光寺 瑞光寺  
瑞光寺 瑞光寺 瑞光寺 瑞光寺 瑞光寺  
瑞光寺 瑞光寺 瑞光寺 瑞光寺 瑞光寺  
瑞光寺 瑞光寺 瑞光寺 瑞光寺 瑞光寺











Faint, vertical handwritten text in Japanese characters, likely bleed-through from the reverse side of the page.



